

家庭科

主任：浅井 千賀

(1) 今年度の目標

- ①人の一生を考えるとという視点から生活に関する知識と技術を総合的に学習させる。
- ②興味・関心をもって生活課題を工夫改善する態度を育成する。

(2) 主な取り組みの計画

- ①生徒の生活力の伸長を視野に入れた授業。
生活を学ぶことに興味を持てる教材の工夫と改善。
ア 中学校での既習事項や他教科との関連を図り、生徒の実態にあわせた教材の選定。
イ 効果的で効率のよい視聴覚教材の取り入れ。
ウ 『模擬体験や作業学習』の取り入れによる自ら気づき学ぶ姿勢の育成と、生徒同士の情報交換。
- ②学習過程を大切にしたい問題解決学習『ホームプロジェクト』の実践
授業で学んだ知識や技術を自らの生活に生かし、応用する力を育てる。

(3) 授業アンケートの結果と分析

進度は約9割の生徒がちょうどいいと答えているが、「やや速い」または「やや遅い」と感じている生徒も1割程度おり、生徒によって感じ方も異なる。特に実習の作業について、不得意の生徒は時間が足りずに速く感じるのかもしれない。

授業態度については、大半の生徒が目標を持ち、楽しんで参加していると答えている。一方で、「苦手意識がある」「集中力が続かない」という生徒も1割程度いる。授業が単調にならないよう、また自分の生活を見つめることに興味を持てるよう、内容や指導方法の工夫に努めたい。

習った内容を生活に取り入れている生徒は約2割、取り入れようとしている生徒は約5割である。生かそうとしているが日常生活で実践する時間がないと答える生徒が3割近くいる。改まって大きなことはできなくても、自分の生活に向き合い、意識するところから始めてほしいと感じる。

興味のある授業内容は「調理実習」が大半を占める。最も身近に感じ、関心も高い内容であると思う。時短や裏技、便利グッズなどの情報があふれ、それらを用いることも便利でよいが、まずは基本の知識や技術をしっかり習得したうえで活用してほしい。

また、手先や体を使っての実習は単なる動作ではなく、効率や理屈、時間等を考えながら、複数のことを同時進行で進めていかななくてはいけない。このような能力は家庭生活の中だけでなく、日常のあらゆる場面で必要とされるものであるため、実習等を通じて養っていきたいと考える。

(4) 今年度の成果と課題

生徒の現在の生活に取り入れられること、応用できることをできるだけ細かくその都度授業の中で話題にするようにした。授業で学んだことを、机上で終わらせず家庭生活に取り入れ、生活改善を図ることが教科の最大の目的である。食生活の分野は特に生徒が興

味を持ちやすい分野であり、実習内容を家庭でもう一度実践した生徒も多く見られた。また、口頭での説明だけでは想像しにくい分野においては、できるだけ実物を用意し、視覚、触覚、味覚など五感を使って感じ、理解が深まるよう工夫した。また、パワーポイントを用い写真や図を使った説明を取り入れてみたが、耳で聞くだけよりも、視覚等から入った情報は、より生徒の記憶に残っていると感じた。

問題解決学習の実践については、長期休業を用いて実施した。各自、生活課題を見つけ、解決法を考えてはいたが、内容が浅いものや調べ学習に終わっているものが多く、問題点の細かな分析や調査、検証活動まで発展ができていない。

少しずつ授業内容や教材に新しいものをとり入れようと努力しているが、とにかく学習内容が広範囲かつ大量で時間が足りない状態である。生徒の実態をあらゆる角度から把握し、目標を明確にし、内容を精選し授業計画を練り上げていくことが課題である。